

KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT
Black
3/Color
White
Magenta
Red
Yellow
Green
Cyan
Blue

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

紅紫紀行

四

ル呂4
344
4

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

門ル呂
號 344
卷 4

筑紫紀行卷四

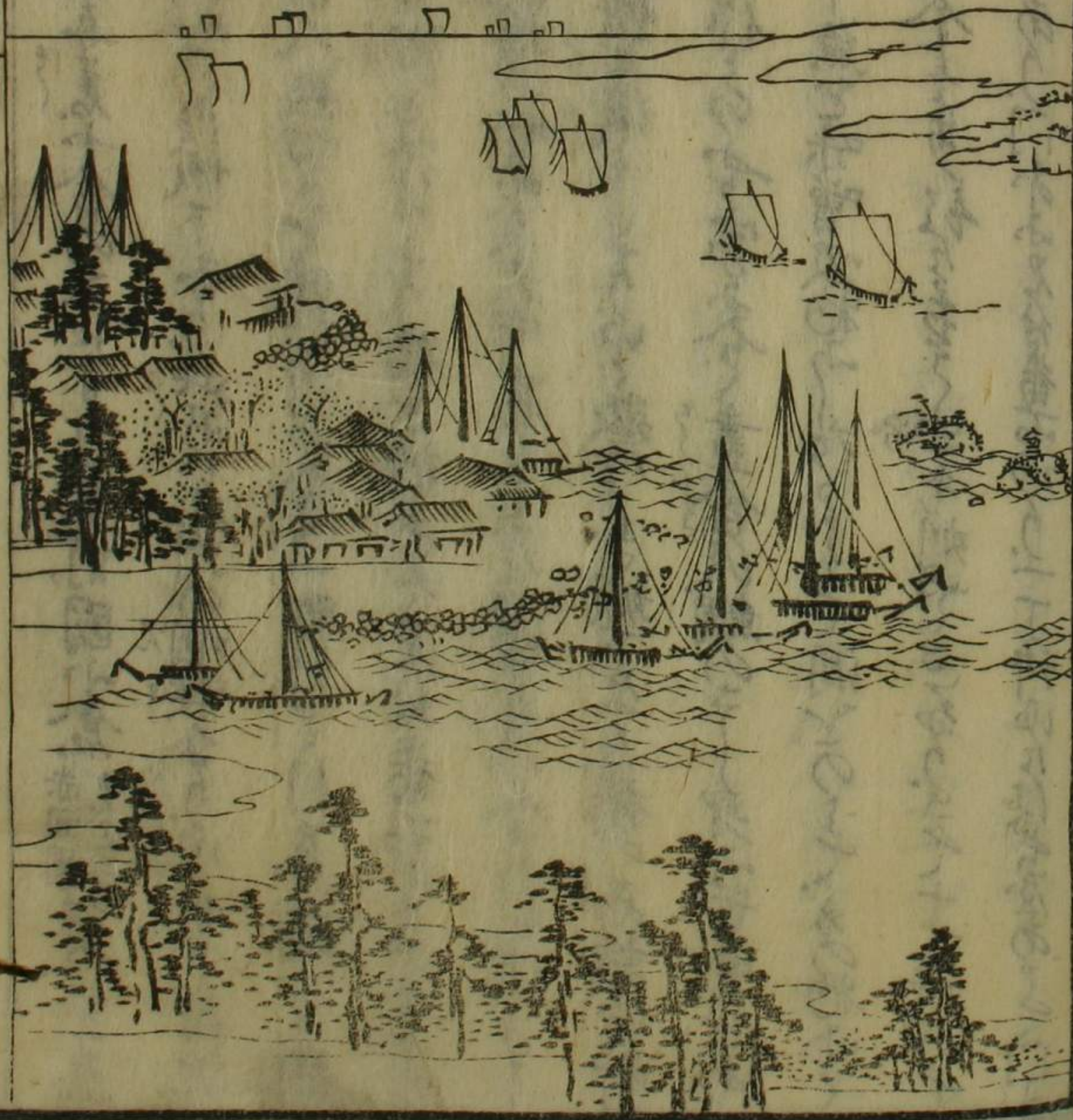
四月廿日より小倉に渡らんて表屋形の舟一艘と九百文まで借やぶ
己刺るる頃赤石園乃宿と立出づ海岸小舟番所ありて船中の人数
手形を合せ見調く舟出を許せ此数日陸行乃芳より上りて
空小海より渡る眺るの事又形小舟思ひ成ぬ東乃方より豊前
司浦人家百六十軒計とある見ゆ大裡柳ヶ浦も一目小見
渡る所の方より舟を引く舟を引く伊崎との石と小瀬戸の舟又嚴
流崎の舟あり此ハ世人乃より知るる剣術者の古伝ありまを武彦
の石碑大裡よりとぞ大裡は南西乃方小あり人家三百軒計あり
諸侯方此渡海し給ふ舟場ありけき本陣なきもあつたり

○卷四



長州赤間関

○卷四



長州赤間関
 豊前
 小倉
 海上の
 風景

豊前小倉



午刺以長濱舟着小倉の入口なり。豊前國小倉。赤間関より三里小倉原
 左近好盛殿十五万石乃清城下あり。此所ハ九州の咽喉なり。川口イ番所
 ありて出入舟の人敷切もと改む川入一町計あり。是は橋なり。楠
 干小鑊乃擬寶珠と名なり。橋を渡りて見付番あり。常より
 内城あり。縦横の町あり。天守高くと。其の城介乃人家は漢より
 漢いて。城の外堀と後より。いそ賑り。其城下なり。橋の西詰室町
 一丁目。紙屋作とのが家入。晝食の鯛のこ。身小苦賣とあり
 ら。是より同魚と味噌吸物あり。たる。酒との。其の物よく
 茶漬をくひく。金き歩。其のきく。出午刺。や。さ。なり。さ。て。十丁許り。て
 町のは口小惣門あり。門外見付番あり。二丁許り。は。長。屋。あり。て。門。は
 撫育所あり。小額とあり。民とあり。と。其。の。め。の。お。な。ん。と。
 是く見たり。又十丁許り。大裡への道あり。又十丁づり。あり。
 黒なる村人家。三十軒許り。半里計り。湯川村人家。三十軒あり。
 皆農家あり。茶屋とあり。け村の入口は石とあり。一里塚あり。十
 丁り。け。猿。木。村農家三十軒計り。茶屋あり。六丁り。け。村
 農家二十軒計り。茶屋一二軒あり。是と平なるの大道あり。石多く
 あり。け。り。し。小。是。より。繩。子。よ。か。り。き。漢。よ。お。き。る。り。い。し。お。の
 才。諸。二。丁。計。あり。周防の國とあり。四國とあり。海とあり。潮乃
 倉。花。たり。い。その。周防灘あり。千丁計り。は。塩。濱。あり。道傍に塩
 釜計十計あり。かくて。其。は。丁。り。け。た。ぬ。き。の。お。あり。人家十軒計り。茶

登軒ありと口ふ一里塚あり。三丁計りて郡境の中此石あり。従是
西企救郡従是東京都郡とあり。又半里ありと申刺さんとする。此
荇田かんたの宿小倉より三里半。又ある。計りて小倉の度乃以候なり。候もさ
人家六十軒計あり。多くは漁者農夫あり。宿屋少うして同屋場
小本陣とせしむる。林田も宿ありとの人の家小宿。座席廣くと
して縁先より入浴せむ。因防灘乃由浪跡る所なり。中ふあり。
近く八十丁許東の方乃沖中ふあり。此時より小崎面なり。海
より校の生垣乃あり。そりたる。浪も小波なり。又ある。此を
風景とせしむる。

○廿一日辰刻以宿と立て。二丁計りて黄六浪松村農人漁者の家曰

十又軒あり。乃より東乃方一里計なり。沖中にこの時又の漁濱あり。
家屋四百もつらなり。道より西ありて中ふ。南系村。尾倉村。
多のふ。又の古田あり。黄六もる。村農家六十軒あり。半里計りて
さやうに村。農家漁者の家二百軒計り。中ふ酒造りて賣たる。家も
つら。石橋とせしむる。川と渡りて。二丁計りて大橋町あり。屋敷小家三百
軒あり。町乃中程ふ。郡境の志なり。またおの京郡南へ中程あり。
荇田よりけあり。乃より東乃方一里計り。是より東ふ。向ひて七分
り。今川より川あり。わが橋のある。さきくは。さきくは。さきくは。さきくは。
さきくは。さきくは。さきくは。さきくは。さきくは。さきくは。さきくは。さきくは。
川あり。是も橋あり。歩より渡る。此乃繩子より此まで。八道

よりし。是より小石多し。のどろ。三里のたが。灘村踏傍ろくろあり。出るハ三四軒茶屋なり。志づ。休やすむり。是より右左平の。小松原乃申あり。げき。赤土の黏ねむ。石も少あり。雨あめの時は。りか。見あり。との。半里計あり。郡境の印しるしあり。中津郡。赤葉城。記こ。つり。又一丁計の。中津原。と。三四軒あり。是より又小石多し。多し。と。二里餘の。たぐ。二口川を歩みて。渡る。水涼し。して。足筋あり。ハ渡ら。も。二丁計。川下。ハ。沙灘の。ら。あり。から。し。と。渡り。て。十丁計。り。は。推田川。石橋を渡せり。橋を渡。ま。推田あり。前田より。是。と。四里半。人家百五十軒計。海も。ふ。ま。は。り。多し。ハ。漁者。農夫あり。宿。茶屋も。つり。是も。小倉。乃。近。中。驛の。宿あり。宿の。出口。ハ。細。川あり。川と

渡。ま。湊村。境。漢あり。人家。百軒計。多し。ハ。漁者。多し。半里計。り。は。上。松の。出。屋。敷。と。路。傍。小。家。十軒計あり。次。ハ。つ。屋。村。乃。出。村の。ま。ん。志。村と。て。百五十軒。次。ハ。横。漢。人。家。百五十軒。漁者。百姓の。多し。が。て。二丁計。り。と。松。江。村。あり。推田より。是。と。一里八丁。是も。小倉の。近。乃。驛。と。人。家。百五十軒計。つり。多し。ハ。例。乃。漁者。農人。多し。中。ハ。酒。造。の。商。家。の。大。あり。つり。又。宿。屋。も。つり。十軒計。り。は。例。の。郡。境。の。志。づ。中。津。郡。赤。土。毛。郡。と。あ。り。は。一里計。あり。と。ち。屋。村。あり。人。家。三百軒計。境。漢。あり。聊。の。湊。あり。町。屋。ハ。商。家。も。多し。と。屋。敷。の。松。と。ち。あり。宿。屋。茶。屋。も。多し。と。一里計。あり。又。一里。あり。と。香。川。と。ち。あり。より。渡。る。川。向。ひ。ハ。香。川。村。人。家。百五十軒。あり。千。五。丁。計。ハ。依。此。の

境のまゝあり。細き川乃ちりり西と小倉の領と。川向を三
軒屋とて家十軒計あり。東を中津乃領とてさき川の川
と歩渡り水渉りし川を度し。三丁計りてこのまゝ村人家
又六十軒有り。村と出離るまは中津川なり。川向を中津乃領の南
を此塀櫓の海是より川地と一丁むりりよりさき舟渡りり。ゆき
渡り中津乃河は奥平大膳大夫殿石十方乃治城下より入にこふ見付
番あり。旅人を入と町家の内。何某より用事有り。とある者
あまはゆり。さき川のまはり。城下此外は堀と掘廻り。七堀の際み
旅人村まらり。川と渡りより三四丁の所。是を屋敷とてあを
通りて城下の外町河田松はより
もと三里よりありて。方屋小をのり。よ宿る。

け所町が河田十軒あり。宿屋のあり。店屋ふく人もさき。はは。又
旅人の宿とをゆづも。よ宿まら家。綿穀物を。商人家心。
さき。風呂をさき。し。風呂屋のゆき。浴を。川と渡りり
十ふりあり。ぬすりも。櫓も。あり。も。多く。渡り。ぬ。此。所。乃
湯。家。中。津。乃。子。石。小。河。田。も。皆。現。米。を。地。方。を。知。り。せ。り。る。り
あ。誰。札。下。み。ト。一。ぬ。み。み。十。ゆ。り。り。二。ぬ。の。河。八。十。六。又。あり。又。は。さ。き
より。又。十。丁。と。さ。き。一。里。さ。き。あり。

○廿二日。卯刻。さき河田とさき。五丁計り。は。中。戸。外。村。人家。又。六十
軒あり。三丁計り。は。一。町。人家。又。十。軒。あり。二。里。あ。ま。り。は。は。は。を
け。村。茶。屋。の。一。軒。あ。る。小。立。寄。り。休。む。是。より。八。小。松。の。山

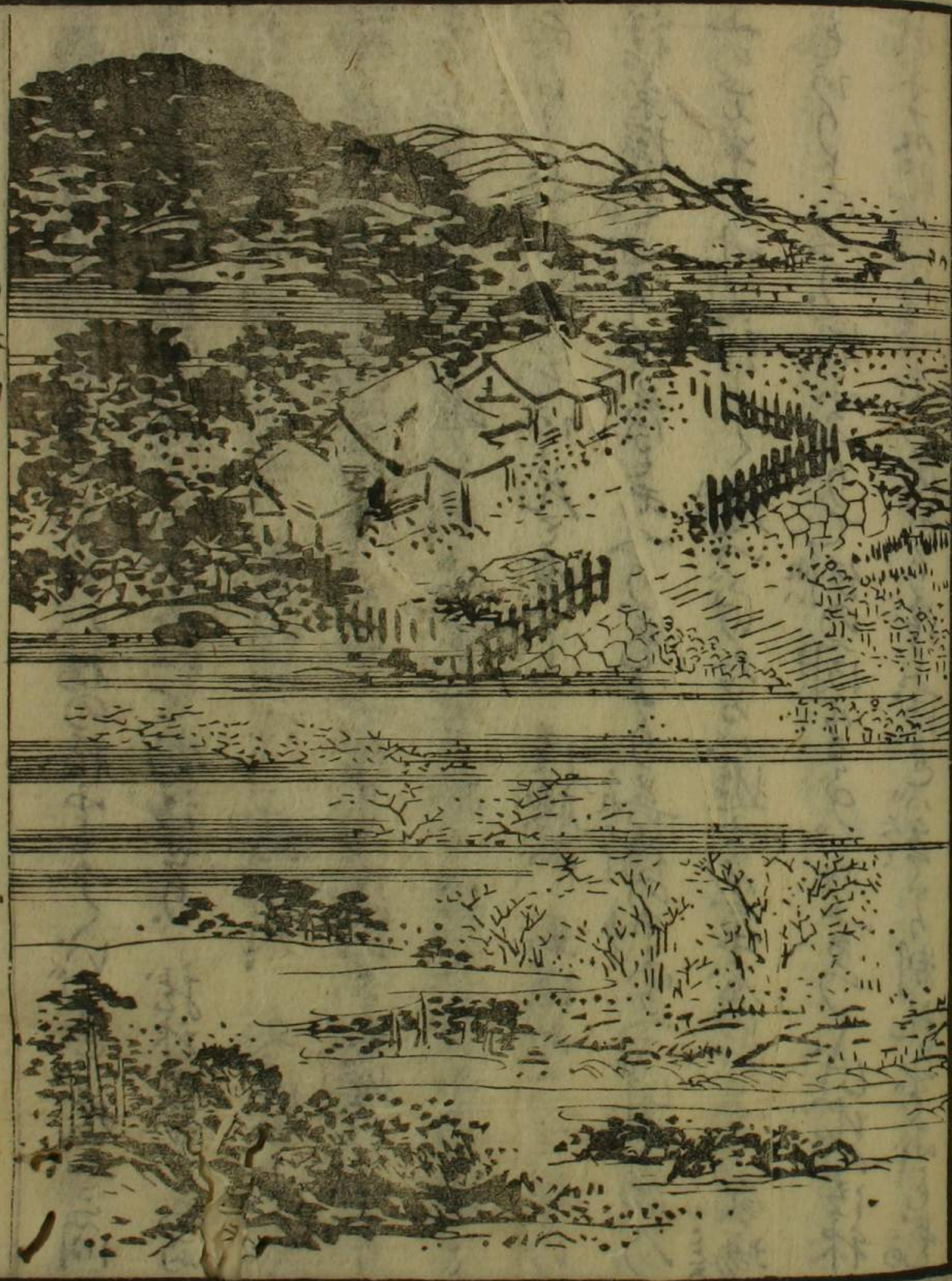
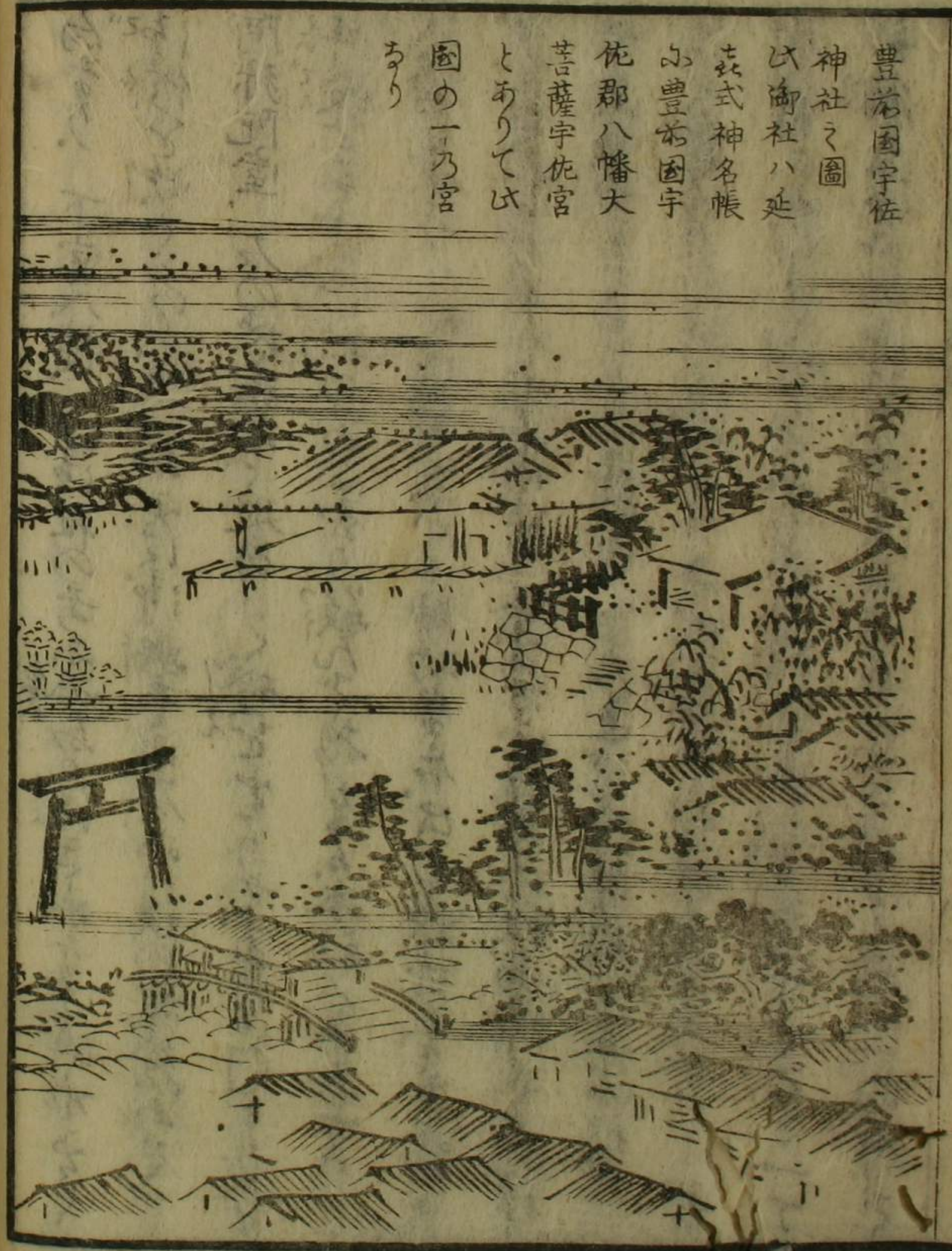
中と通る赤土の平なるきりり。西やびたりとふりこきり
十丁山といぬ村人家三四十軒あり。茶屋あり。此邊より茶後の
富士との山を巔ふ三の峰ありて。あちも画堂富士ふ似たり。又
りて二丁計ありと歩より渡る川あり。川中よ花石のつらとほり
と渡る。三丁のりばと村あり。時田より二里八丁 中津の渡りゆく。人家三
四軒あり。茶屋をとりまて宿はあり。半里計のりばをやの川村
林の周よ人家三十軒あり。茶屋一軒路傍あり。せり。又半里の
者。猿渡の川花石とほりこきり。川を渡れば山下村人家二十
軒あり。茶屋をとり。家よふけ下の名物とく。館のいまる餅を
うあがくて一丁計のり。のり間は小石多くて。こもまれば石車り

のりこきり。まらふのり果て。小松系乃赤土の地ゆく。二十
丁許ゆれば例乃領地境のあり。まり。馬の中津原。赤土相倉橋九町ま
配おとつり。津公館あり。又十町計あり。官市町ふあり。とせり。一里四十丁
人家百軒計多く。茅屋多く。町並り。は。商が茶屋宿屋をとり
こ。まか。八塔瓦師あり。中津小川あり。石橋と渡せり。町を離
れて十町丁ゆけば。村家二十軒あり。茶屋をとり。七八丁のり。あは
千社村路傍の家十軒計多く。茶屋あり。村のま。小津川あり。
舟をわたり。ま。より。小石多き坂を越のり。平なる十計のり。
是より南嶋原領とのあり。な。又五丁計り。黄。是より小松
崎系原とのあり。ま。三丁計り。井戸二ツの傍あり。

此の所の井とあり。是より坂を下るとなり。此は宇佐の町へ
入口あり。四日市より宇佐と一里 此は八幡宮の清神所なり。人お千軒あり。以
とも三四百軒あり。是よりと見ゆ。町の長さ三丁計多くいふ。是より
商家宿屋茶屋多し。未だに橘屋跡を傳ふ。宿屋おつきて案内
を求めて八幡宮より清神所より考へて。東の角に銅の壺集り。是集
乃内より瀬川より異橋とせり。是を形をつけし橋なり。げを流川の
間より茶屋三軒あり。沙神木とせり。此の本より茶入玉垣となく
めくせり。かくて又南へ行けば彌勒寺。此本地佛と安んじ。本堂と
ハ金堂といふ。草葺お。傍に茶師堂。鏡橋堂あり。庭に石の
のりりて。是も玉垣とせり。是の所の清社。熊野寺あり。南

向あり。下宮八幡。此清社の所あり。冷ある清き水をかき。此水をく
清けを炊く。この水門外には清興寺。此庭に八旗の地蔵あり。
阿弥陀堂。石の地蔵あり。巡お。是を礎とせり。南の西門より令
拜殿とせり。此社の所あり。敬ん。本社の所あり。乃方ハ
八幡宮中ハ。姫清社。東ハ。神功皇后。此之神宮。合せり。乃
そ。それより。東社。安南。此は。又東の方ハ。住吉の社。西ハ。春日の社
およ。此の所を。西の方ハ。ま。此幣殿。龜山社
本を集り。け。通。平地へ。向。切。を。壘。布。若
宮八幡。お。ま。か。水。乃。礎。と。せ。ハ。菱。形。池。と。せ。一。丁
計。三。十。万。計。の。池。あり。中。は。清。り。あ。り。清。り。清。り。の。石。乃

豊前国宇佐
 神社之圖
 以御社八延
 表式神名帳
 小豊前国宇
 佐郡八幡大
 菩薩宇佐宮
 とありては
 圖の一乃宮
 あり



橋をかけたなり。くもまもも八橋の板中もくいづきも二二間
間あり計の大小あり。誇くふ各末社と勧進せり。龍神の宮。天満
宮。山神宮。阿保陀堂。嚴浄明神。精才天。又珠をすま
せむ。まて誇くは梅橋と多く。おませ極く池のさぬ礎のより
ましく見おろして。通く誇くを延しおし。ほも。んふあ。は。と
西より。まの以は。は。ぞ。う。ん。き。ゆ。り。馬場あり。丁計の
程。茶橋を。四り。て。後。と。あり。是より。兵橋の下。ふ。る。げ。川。筋。乃
心の。方。半。丁。計。は。新。く。建。つ。け。たる。遊。女。屋。茶。屋。の。町。を。劇。場
を。つ。り。と。り。宿。ふ。り。て。例。の。同。ろ。る。ま。ま。の。ま。ま。の。け。此。の。法。神
候。子。石。肥。前。の。誇。ま。り。及。び。り。終。ふ。は。ま。ま。の。制。札。を。ふ。も。是

殿乃の。名。を。ま。り。せ。り。八。幡。宮。の。神。主。小。到。津。大。宮。同。宮。城。大。宮。同。宮。の
あ。か。り。ま。ま。の。社。家。三。百。人。計。か。は。社。傍。若。干。人。つ。り。け。し。毎。月。六
齋。小。富。と。し。く。なる。大。富。六。千。四。百。貫。文。中。子。六。百。貫。文。小。子。貫。文。
中。札。九。百。六。十。文。小。札。六。百。文。あり。中。津。の。福。札。け。し。ふ。も。通。用。を。銀
一。ふ。納。九。十。文。あり。と。ぞ。

○廿三日知刻る。ふ。ま。出。て。市。ふ。ま。り。て。東。の。方。入。口。より。南。よ
曲。り。京。中。中。々。地。に。赤。土。あり。百。十。丁。計。り。黄。ば。ま。村。人。が。十。新。計。
る。傍。小。さ。い。出。る。茶。屋。を。つ。り。け。あ。り。る。も。臍。を。と。堀。を。た。の。か
即。半。夏。乃。の。ま。り。が。く。て。乃。ふ。石。多。く。あり。ぬ。十。丁。計。り。け。川。つ。り。
東。の。方。月。形。山。あり。は。心。乃。根。と。川。は。流。て。多。く。げ。川。と。西。も。東。へ。流。度

を渡してゆきつてくわ村ふる人お二十軒あり根は深たき
さて是より川の中をなす一里計より大なる小なる中一りなる石を
道中へおぼろびとて阿蘇村ふる路傍より二十軒付南
茶屋もあるよま今く志し休て半里計ゆげを山口村よりけ村は
岩合多く人お二十軒計あり是より山道と十町計もま橋跡
とてわりのある小屋を造りて茶屋を設けありけより南は
中津領ふる領ありまはるなりななり志つて休て坂を下り
又半里計ゆけ登形村ふるけりりまて峻く後半ふる岩山
多し或はさうさ敷十丈の岩山頂は面白き松せの岩と衝抜てま出
たらふらまやんる月醒るん地すもより谷川の側をたはる川と

右より一左よりして度々まりて又山を十町計もまて栗本峠
まよるは峠と三丁計ありて又五丁計もまは羅漢峠へけりり岩
山の中に狭き谷と切けりりて險難くけりりげ峠と半里
計より谷川ありそれより山の尾と廻りて又丁計は羅漢寺の門
前跡田村あり宇佐よりけりり領あり末刻に仁王門の下なる
松尾登八雲といふと宿とまめて志つて休て隨即羅漢寺ふる系詣
押阿蘇村よりけりり希ふは家もかれが茶屋商家まではたてなく
草鞋一つも求めずとてま橋跡まぬらりてけりり
小屋をれば接人少きを以て八時よりしていふとよりけりりけりり
系詣人必阿蘇村より用まて何とて彼とも調へたてり

豊后國
下毛郡
耆閣窟
山羅漢
寺之圖



○卷四

十三



溝と云ふは梵字石。柱の頭。跨橋。吹出。此弥陀寺である。
座禪堂。阿弥陀如来と安置せり。かくて本堂は諸の釋迦佛乃舎
利と佛善せるあり。されが舍利殿と云ふ額をかけたあり。其善徳大和也
乃佛徳あり。奥乃院は三十之銀と安置の堂の傍に佛存あり。
それ等の礎道と下りて仁王門と云ふ窟あり。この仁王も又石にてあり。
まぐくけあり。岩山の中まぐく山の内ふ昔景あり。村の人家の基に底
あり。わりの岩山と云ふと云ふ。こゆるは石といふ。面中。村の中にある
一乃岩山と云ふと云ふ。かくまぐく後年て頂は石を培きく。後まぐく松
せけ。後まぐく。げい。捨まぐく。後まぐく。可投たり。わりの岩
石の中に建たるあれ。この本堂を座禪堂と云ふ。教文の岩窟の志こ

みく。佛社の佛像も皆石と云ふ。彫造りあり。巡り廻るる。これ左右
の岩山も教文も佛像塔乃形と彫。門前乃乃の左右も。種々の佛
像あり。まぐく。わりの及ぶ。あり。と思はる。後まぐく。霊
場あり。け羅漢寺。豊前國下毛郡。ふく。山号と者。岩窟山。保。寺
領地。亦まぐく。面石と領す。いふ。延文五年。照覺禪師。建順和。あり。
佛道。乃用基。して。鹿園院。あり。山号。寺号。又額を寄附せ。と
せ。む。い。と。げ。地。念。ま。ぐ。く。五。六。十。約。皆。農。家。あり。門。前。あり。十。約。計。の。
宿屋。茶屋。と業。とせり。宿屋の。根。屋。敷。八。大。抵。ま。ぐ。く。な。く。も。わ。り。ぬ。と。
敷。地。を。一。人。又。一。つ。つ。あり。と。い。ふ。自然。生。る。薯。蕷。と。云。け。け。り。
其の物。一。種。ま。ぐ。く。夕。飯。と。云。ふ。む。茶。屋。敷。粗。粒。と。云。ある。に。お。よ。ぶ。

頑くつき一三老婆ありとくひつろ喧ひつろ一くあさちらうまの秋蟬より遠く襖たもと
 てくききり居ま心安うもむさゆひつろ娘むすめの出来き経けい仕したるが極ぎくて羨うらやま麗れい
 ありに少すくいんを慰なぐさむるわわ激げきや山中やまなか清せいの佳よき石いしの氣きをさるるやや膚はだかの
 際さかいさる雪ゆきをを欺あざむくあざむくはやはままく目めつつ額がくありあり愛あい敬けいあり
 むどがる本もとはいそかくかくく無なむむるまま打う撃げきうれえん讚さん嘆たんせせくく程ほど々
 ぞるるささて是こゝより彦ひこ山やま系ま筋すぢんんしてあるとよぶ道みちとていいれ
 より彦ひこ山やま乃のる二筋ふたすぢからひひく一つはひとつははぬぬ記きををてて山中やまなか佳よき石いしがく
 ああ一ひとささるふてふてと怪ひろ蛇へび多くおほく人ひとの患うれををいいれれよりゆゆまま九こゝろ里
 なり一つはひとつはは山やま國くにををてて川かわはは流ながる道みちよりより十一里じゅういちりまでまでははありあり少すくい遠とほく
 とも同おなくくハハ無な難がたあるありゆゆりりゆゆらんらん宣のたまううくくややといいふふたたるる也や

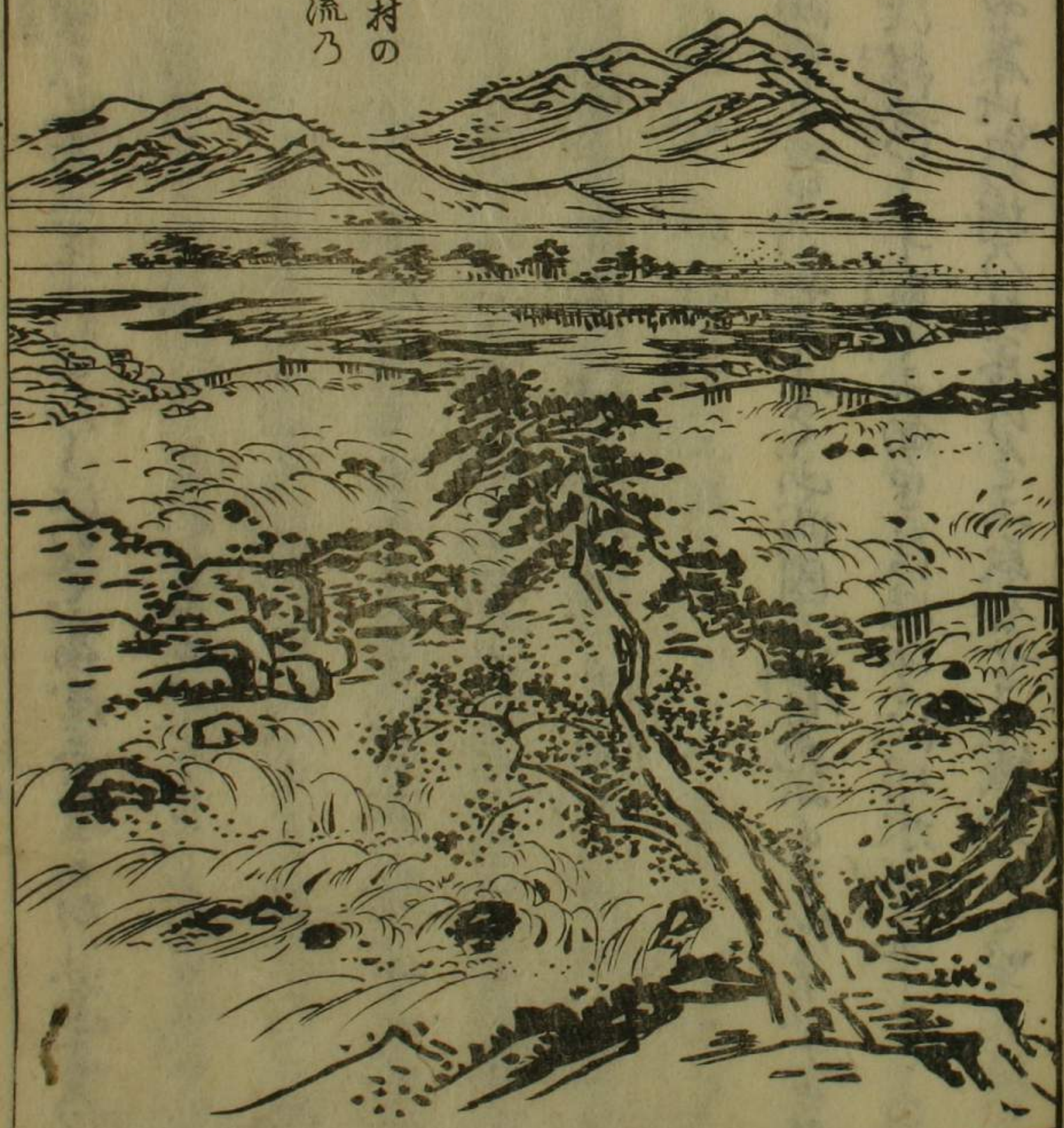
ゆるりありといふは海をく山國道とゆくと定む。

○廿四日卯刻に宿とて立出く。三丁計山をとて又三丁計下
 ままば小川内村より谷川と流ながるる十町計ゆは折元村へ又十町
 たりりりり。臨田より是と半里是も津領あり川と流ながるる落合村とてままぎぎて。谷合
 乃山道と十丁餘ををてて紀伊峠きいとうげふふるるそれより峻坂すげと十町又下
 まで山ををてて廿四丁乃の戸原村と一里半是も津領中はらにに人ひとが
 又六十軒ままををららにああるる皆農家みなかかみみ茶ちや屋や宿しゆく屋やあり。村を離るはなれ
 谷川ありありからり流ながるるくちの林村はやしむらふふるる豊前ぶんぜんの中津なかつよりより後乃
 日田ひだよりよりありあり人ひとがが四五十軒しよじゆけん海うみをを茶ちや屋やありありことすすびびてて二丁計り
 乃の川がわと流ながるるくちの川がわはは右みぎ左ひだりの川岸がわべ皆みな岩山いわやま險けん一ひと待まちて。

ゆくの尻乃とよ高きくく是の左のたれ川岸の岩を切通し溝と
作しき用水と繋るあり。終に川下に殊に切通しあり。長さ三百六
十方間ハ計り計りてさへ乗掛馬のりき通る程也。其中ハ二
四間と隔てぬり穴と穿けり。さきとそれと又ハ一里餘廻り
るをまぶさふりては又さきと又ハ口惜く思ふ。くく川は流る十町
計りハ出登敷村あり。又十町計りけハ柿坂村あり。二村乃る川岸の
根を石を積り寄せきくさくさたるきくさくさく川水増す時にけ
まはよりされど川中に面をき大石甚の多くありて。茶色のよき
心とふくさあはけり。川乃名とハ山國川とあり。又五丁計りハ南
乃ありけり。川は落合る枝川あり。間五間計りあり。流る水膝成

越より。五丁計りけハ鶴村あり。十丁計りて又山國川とあり。流る。
けり。川の淵計り同計り水涼として股と浸し腰よ及ぶ水の勢はく
甚危し。かくて十丁餘りて宮園村とあり。もと二里餘りて中津の領
あり。人家四五十軒あり。にあまど休む。茶屋あり。村をまぐれば
川あり。指町計りけハ又川あり。二ツも石を積りて柱とてとみ丸
木とあり。さきとに石を布て橋せり。是とまぐれば一ッ堂村と
あり。人家二十軒計り。れと茶屋あり。又川と二ッ渡り。さきと中津村と
あり。又六丁計り。宇野村とあり。人家二十軒計り。例乃茶屋も通。
又けり。平小津村とあり。中津領あり。酒屋あり。茶屋あり。又
二十丁計り。けハ表の村。又三十丁計り。けハ本村。宮園よりけハ

豊前国美津村の
山中山谷川激流乃
圖



伊願^{いがん}とて^い難^{がた}なり。人家^{いへ}二年^に好^{この}まづらにあり。宿屋^{しゆくわ}茶屋^{ちや}もあ。宿屋^{しゆくわ}乃^{すなは}何^{なに}某^{あつ}が方^{かた}より難^{がた}の事^{こと}と云^い扱^{あつか}ふ。なれば立^た寄^よて人^{ひと}を求^{もと}むる小^こ玉^{たま}立^た出^いでい。我^{われ}も茶^{ちや}一^{いつ}く河^かをい扱^{あつか}てあ。江^え府^ふ役^{やく}用^{よう}す。越^こさゆ。時^{とき}尾^お州^{しゅう}を過^かり名^な寄^よ屋^わもお。ゆりゆり。なまれば江^え府^ふ物^{ぶつ}もま。だ。あ。く。内^{うち}供^くもも。さ。で。勞^{らう}若^{じやく}あ。ん。是^{こゝ}。如^{ごと}く。人^{ひと}。是^{こゝ}。と。ば。左^さ者^{しや}あ。く。ハ。お。ま。は。し。下^{した}。も。名^な。寄^よ。屋^わ。も。来^き。り。也^{なり}。は。例^{れい}外^{がい}の事^{こと}なり。と。人^{ひと}。と。よ。ぶ。催^{もよほ}使^し。七^{しち}。人^{ひと}。是^{こゝ}。一^{いつ}。人^{ひと}。出^い。あ。る。た。り。か。く。こ。村^{むら}。と。出^い。離^り。れ。二^に。丁^{てい}。計^{けい}。仍^{なほ}。ば。山^{やま}。國^{くに}。川^{がは}。の。川^{がは}。と。よ。ま。り。川^{がは}。幅^{あし}。せ。ま。く。水^{みづ}。深^{ふか}。く。青^{あお}。濁^{にご}。の。を。藍^{あいな}。乃^{すなは}。か。く。ま。く。山^{やま}。城^{じやう}。國^{くに}。乃^{すなは}。産^{うぶ}。花^{はな}。ふ。り。く。似^に。り。大^{おほ}。岩^{いわ}。あ。ま。り。水^{みづ}。中^{なか}。に。錯^{さく}。落^{らく}。と。と。取^と。り。く。ま。面^{おもて}。白^{しろ}。は。海^{うみ}。あ。る。に。川^{がは}。水^{みづ}。激^{げき}。流^{りゅう}。し。く。白^{しろ}。珠^{たま}。と。成^な。り。あ。岸^{きし}。に。新^{あらた}。樹^{じゆ}。乃^{すなは}。繁^{さか}。茂^も。の。を。み。取^と。り。合^あ。せ。く。城^{じやう}。又^{また}。工^{こう}。と。以^{もつ}。て。立^た。居^ゐ。る。

たるめき乃^{すなは}自然^{じぜん}の美^{うつく}景^{けい}なり。あ岸^{きし}より指^さ出^いる大^{おほ}石^{いし}より川^{がは}中^{なか}に岩^{いわ}の向^{むか}で。橋^{はし}も小^この橋^{はし}とけり。是^{こゝ}より道^{みち}のまよ。瀟^{しょう}乃^{すなは}本^{もと}河^かま。く。見^みゆ。葉^はの橋^{はし}ふ似^にり。本^{もと}ふ。横^{よこ}。海^{うみ}。小^こ。切^{きり}。目^め。と。取^と。り。法^{はふ}。を。ま。ま。く。切^{きり}。目^め。より。松^{しょう}。の。ほ。く。瀟^{しょう}乃^{すなは}。ま。ま。く。取^と。り。ぞ。又^{また}。幡^{ばん}。を。ま。ま。く。取^と。り。よ。ん。ゆ。根^ね。又^{また}。川^{がは}。と。二^に。び。渡^{わた}。り。て。十^{じゅう}町^{ちやう}。計^{けい}。仍^{なほ}。ば。雨^{あめ}。降^ふ。り。け。ま。ば。辻^{つじ}。堂^{だう}。の。あ。る。ふ。ま。ま。く。立^た。入^い。り。休^{やす}。む。か。る。程^{ほど}。な。や。ま。て。雨^{あめ}。晴^は。ぬ。又^{また}。半^{はん}。里^り。け。け。バ。細^こ。さ。川^{がは}。あ。る。紙^{かみ}。か。ち。より。渡^{わた}。る。戸^と。原^{はら}。より。け。け。不^ふと。と。山^{やま}。國^{くに}。名^な。の。ま。ま。り。山^{やま}。の。ま。ま。り。村^{むら}。に。紙^{かみ}。を。渡^{わた}。る。者^{しや}。あり。い。ま。ゆ。り。を。渡^{わた}。ら。ぬ。枚^{まい}。束^{たば}。と。い。ふ。實^{じつ}。は。け。け。不^ふと。と。と。出^い。せ。る。あり。か。く。て。川^{がは}。を。渡^{わた}。ら。ば。川^{がは}。内^{うち}。村^{むら}。草^{くさ}。本^{ぼん}。より。け。け。不^ふと。と。中^{なか}。津^つ。領^{りやう}。を。く。人^{ひと}。が。み。十^{じゅう}。町^{ちやう}。計^{けい}。の。乃^{すなは}。ま。ま。り。河^か。を。渡^{わた}。ら。ぬ。皆^{みな}。農^{のう}。家^か。が。ま。宿^{しゆく}。屋^わ。を。お。け。ま。ば。左^さ。屋^わ。の。寶^{たから}。珠^{たま}。山^{やま}。三^{さん}。郎^{らう}。助^{すけ}。と。い。ふ。ま。ま。り。河^か。を。渡^{わた}。ら。ぬ。今^{いま}。

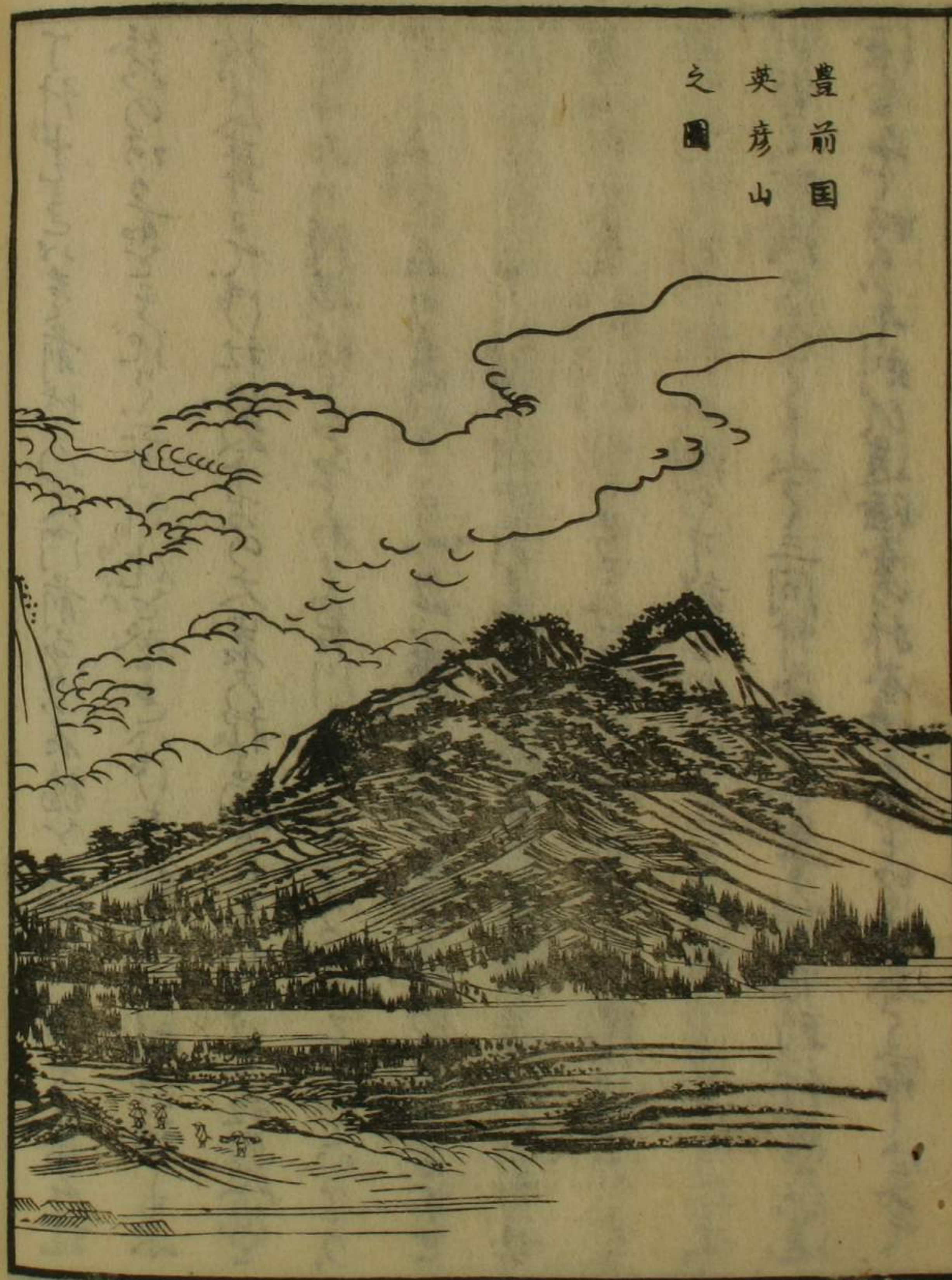
日ハの山國川を南ハ少東ハ西ハ流多ク十四五度及るも殊々悪
 かりけとよ乃主^{カウ}云業はやくあるは彼はぬさるハ背^{カウ}ふつるん
 と思^{カウ}らるそそ徒然あるまといよい主^{カウ}をよびて^{カウ}同ハけ村乃
 本名とバ槻木村^{ウツキ}とし村内乃廣さ三里ハ二里人亦不^{カウ}よらひ
 まづ二百軒計田地のさ三百石餘々年貢百石餘と納め又山^{カウ}勝
 あり地多^{カウ}田畠少^{カウ}なる山中^{カウ}て山業細草獨活等の業材を採^{カウ}
 業^{カウ}ハ或ハ炭燒本地挽^{カウ}をも多^{カウ}く本地挽乃運^{カウ}ハ年ごと^{カウ}に轆轤一
 丁小四^{カウ}三^{カウ}の納め^{カウ}なり^{カウ}豊前國毛谷村ハ助^{カウ}多^{カウ}大岡御誠録と
 云軍書^{カウ}云々^{カウ}近^{カウ}津福理^{カウ}よ之^{カウ}作り^{カウ}たる^{カウ}なりと^{カウ}云^{カウ}思^{カウ}ひ出^{カウ}て^{カウ}る^{カウ}ハ
 毛^{カウ}事^{カウ}少^{カウ}く^{カウ}是^{カウ}の^{カウ}り^{カウ}一^{カウ}里^{カウ}小^{カウ}河^{カウ}なりと^{カウ}元^{カウ}槻木村^{カウ}と^{カウ}す^{カウ}に^{カウ}去^{カウ}る^{カウ}なり

者^{カウ}代^{カウ}村^{カウ}の^{カウ}長^{カウ}と^{カウ}是^{カウ}ハ^{カウ}助^{カウ}多^{カウ}子^{カウ}孫^{カウ}なりと^{カウ}や^{カウ}ハ^{カウ}け^{カウ}士^{カウ}志^{カウ}の^{カウ}初^{カウ}
 り^{カウ}松^{カウ}飾^{カウ}を^{カウ}用^{カウ}ひ^{カウ}ぎ^{カウ}て^{カウ}此^{カウ}乃^{カウ}把^{カウ}と^{カウ}門^{カウ}よ^{カウ}な^{カウ}く^{カウ}家^{カウ}小^{カウ}系^{カウ}圖^{カウ}記^{カウ}録^{カウ}も^{カウ}ら^{カウ}ひ
 一^{カウ}と^{カウ}二^{カウ}十年^{カウ}の^{カウ}火^{カウ}災^{カウ}お^{カウ}て^{カウ}村^{カウ}中^{カウ}も^{カウ}く^{カウ}焼^{カウ}亡^{カウ}せ^{カウ}し^{カウ}時^{カウ}よ^{カウ}ち^{カウ}ら^{カウ}び^{カウ}失^{カウ}つ^{カウ}り^{カウ}と
 中^{カウ}の^{カウ}毛^{カウ}谷^{カウ}村^{カウ}ハ^{カウ}槻^{カウ}木^{カウ}村^{カウ}を^{カウ}け^{カウ}や^{カウ}村^{カウ}と^{カウ}な^{カウ}り^{カウ}誤^{カウ}也^{カウ}と^{カウ}又^{カウ}同^{カウ}
 あり^{カウ}に^{カウ}杉^{カウ}中^{カウ}や^{カウ}前^{カウ}の^{カウ}の^{カウ}杉^{カウ}坂^{カウ}も^{カウ}け^{カウ}り^{カウ}あり^{カウ}と^{カウ}や^{カウ}ハ^{カウ}け^{カウ}士^{カウ}志^{カウ}の^{カウ}初^{カウ}
 傳^{カウ}も^{カウ}承^{カウ}け^{カウ}り^{カウ}む^{カウ}か^{カウ}ら^{カウ}け^{カウ}主^{カウ}心^{カウ}篤^{カウ}實^{カウ}る^{カウ}人^{カウ}と^{カウ}山^{カウ}谷^{カウ}解^{カウ}地^{カウ}乃^{カウ}り^{カウ}是^{カウ}ら^{カウ}ぬ
 中^{カウ}よ^{カウ}し^{カウ}種^{カウ}心^{カウ}を^{カウ}け^{カウ}く^{カウ}し^{カウ}を^{カウ}お^{カウ}扱^{カウ}ひ^{カウ}て^{カウ}古^{カウ}く^{カウ}垢^{カウ}つ^{カウ}き^{カウ}る^{カウ}木^{カウ}枕^{カウ}と^{カウ}心^{カウ}等^{カウ}ひ
 しく^{カウ}白^{カウ}紙^{カウ}お^{カウ}色^{カウ}を^{カウ}る^{カウ}る^{カウ}も^{カウ}あ^{カウ}れ^{カウ}志^{カウ}乃^{カウ}程^{カウ}の^{カウ}も^{カウ}り^{カウ}な^{カウ}る^{カウ}事^{カウ}ハ
 挽^{カウ}浦^{カウ}く^{カウ}ら^{カウ}は^{カウ}く^{カウ}む^{カウ}り^{カウ}あ^{カウ}す^{カウ}る^{カウ}挽^{カウ}く^{カウ}ら^{カウ}な^{カウ}さ^{カウ}け^{カウ}も^{カウ}あり^{カウ}也
 や^{カウ}や^{カウ}の^{カウ}う^{カウ}り^{カウ}あり^{カウ}枕^{カウ}ハ^{カウ}書^{カウ}付^{カウ}て^{カウ}引^{カウ}ぬ

○廿五日辰刻以まきく細き山を爪先とりよせり山崎一
町をり半里許分入は内道中とて中津の原に杉山ありけきたら
りけり山を谷川を五渡り峠を越えぬ源くみ山源くみ入なり又半里
計あり岩の憩といふ所ありこれより谷川は流つてその川を渡るも
右左に渡りて谷川の山道をかえる。椎かハ榎梅榎木楓木
繁茂して日光を蔽ひ隠す。谷川は大きな盆石をくみ岩井を
に流す。是又目と悦びしめを慰めつゝ行くと程いく度も谷川を
渡りて二十丁計せられ峠あり。右の方に一乃たの粟二の倉此粟
三の鷹の粟とて三乃山人の是より十丁計急なる坂路と下ればあり
たる杉林ありけあり早や彦山乃境角より下り。終に四丁下りて又一

丁計せまきく前坊乃大門前あり石橋と渡りて石の多集石院
院の所を前とせ記す。二十丁計と登りて清本社あり。拜殿清社も小
檜皮葺く。清社ハ敷十方の大岩乃根も洞もてそれ清本社の破風と
は希たり。鐘楼体も亦ぞあり。谷川の横より流るゝ小石橋とあり。
かくてその石を集れ下りてよりて廣き道の両側は杉の並みり。石と
四十丁より下れば地蔵堂あり。是より坊せありて七八丁ありて
彦山町あり。川内より
是と三里町の長さ二十丁計。片側はよく片側はよくして。
西の口一丁計。乃程は両側の中程を甲のこいと石垣あり。是より一丈
計あり。町濶さひくもよく三間計あり。へおすべて百軒計。商店造
酒屋をとり。午刻に送酒屋の外を傳馬とつゝはる宿とて

豊前国
英彦山
之圖

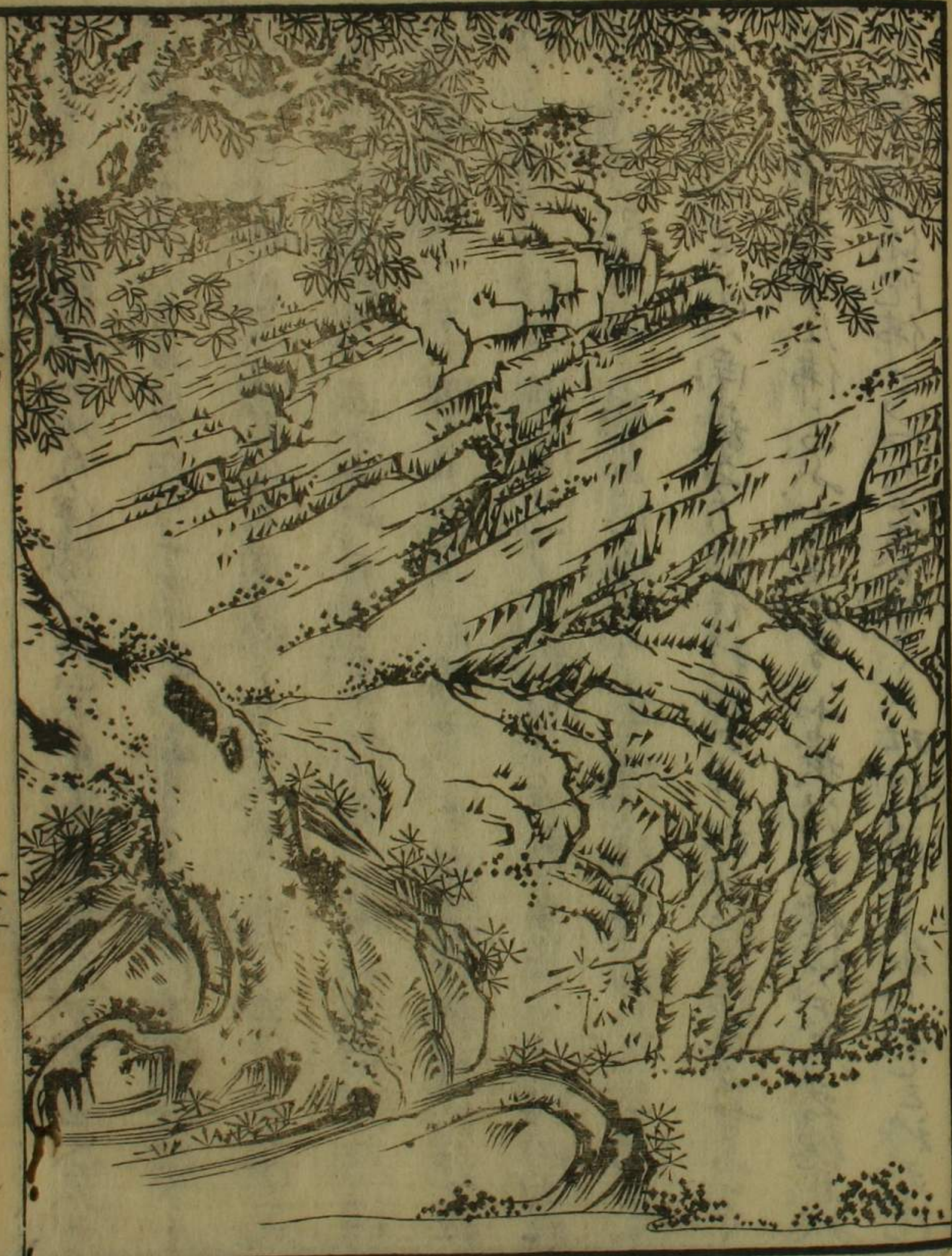


○卷四

二十一

晝食と傳めて是より中嶽のなり社と巡おせん。例の葉内乃
 ちと求めてまわつ所と離きておの方十丁計、お洞のほらのをも集りけり。
 集り何所目と教（物もあひひ後ひて去るはあり）のほらて十二
 丁目より四方計の沈り平にひきつるとふ天神の宮と居すまり衣
 櫛を掛り十四丁目より大徳堂小笠原より寄附し路のりいふ。
 堂の縦横者十八間、積櫛あり。小山將軍地蔵。十二社の宮、伊興殿
 あり。十二社より中嶽。南嶽。北嶽。知室。白石宮。大乃奉。
 中宮。小山殿。玉座。大南殿。鷹巢宮。竹屋宮といふあり。
 坊度より小宮小安並せり。二十八丁目より住吉子の宮（少）のほら
 接合あり。長崎乃月乃奉、此人より後のほらなるあり。二十五丁目より

一の鎖くさりとて屏風とまゝなるやまの二乃岩のまゝ三間計あり。漢乃鎖
 三筋下り岩も少くづは是掛のあを爪つめ先さきしてきて、鎖くさり取す。こ
 ろも登りたるんを、鎖くさりはる落ゆらん下れ岩もにありて
 身體からだ粉こな砕くだき登くねといれ、いや危くからうとて登のぼりて
 きて三十六丁目より。こま豊前坊を遥拜するあり。又一丁のなれば
 弁才天の宮あり。是はお殿津社も鍋島の儀のりより寄附し給ふ。こま
 三十八丁目より大目如來。小宮小安並す。又一丁をまじり狩籠護法石乃
 洞のほらありて。外廻りより六櫛干あり。四十一丁目より伊勢大神宮と遥おる
 不あり。四十六丁目より乃志の堂三間あり。前より石の護摩段
 あり。後より宿あり。前より杉東殿と云はれあり。赤き木のをも集たり。



〇卷四

九三



英彦山
一の
鎖の
骨

旅人の
鎖の
岩壁の
つらさ

少くはは接符不有り。伊豫の松山を其屋敷を久万屋又をといふあり。毎年二月十四十五乃お目。こ小接符乃設け。こといふ。五十町目小開和有り。関津とて一人小六文つ。おこむ。関乃外六地。五十四町目下系石有り。五十五丁目。二乃。一の嶺の松。伊弉册のき。本地は千を。歎きありといふ。拜殿本社。世小洞乃瓦葺。鍋島の屋より寄附。松の。西あり。是を。ありて。山。南嶽あり。信体権現の。伊弉諾の尊あり。本北の釋迦。年。庄佛。お。小の方。小。獄。法。体。権。現。天。乃。忍。穂。耳。此。そ。本。北。阿。弥。陀。佛。とい。り。右。合。せ。く。三。社。権。現。あり。是。三。社。天。地。

開闢の初。六寸。八角。乃。水。精。の。と。天。降。り。也。人。王。十。代。出。宗。神。天皇乃二年。其水精より光を授ち。お。依。く。世。人。を。神。靈。と。初。一。と。今。を。去。り。己。小。子。年。に。迫。り。か。て。人。王。二。十。七。代。继。体。天。皇。此。二十五年に。三。嶽。乃。開。基。り。を。中。興。せ。り。人。王。五。十。二。代。嵯。峨。天。皇。乃。十。二。年。以。て。法。蓮。と。人。を。い。ふ。人。あり。と。い。り。寺。を。英。彦。山。靈。仙。と。い。ふ。無。量。壽。院。と。號。し。座。を。大。信。心。と。す。妻。帯。あり。大。先。達。の。身。を。お。見。龜。石。坊。と。首。を。以。て。寺。領。小。笠。原。氏。の。三。百。名。細。川。氏。の。百。名。を。外。法。候。あり。こ。り。に。寄。附。あり。と。い。ふ。毎。年。二。月。十。四。十。五。の。あ。日。は。祭。礼。あり。松。乃。倉。と。い。ふ。の。大。講。堂。の。前。に。三。石。六。斗。と。い。ふ。と。播。中。は。松。乃。村。を。ま。さ。く。五。穀。成。就。の。祈。願。を。ま。さ。り。あり。されは。

宇佐の重信集詣一と

十地よりのちもほろ乃種まゐてやそ此法をね柱う那
又玉登若乃石塔名滅水と同一人

いさ此よき音のち根乃沈まおとほすころを又いけうそ
こよあわしとぞがくて夕暮方小宿又宿して休息す抑宇佐より
羅漢又彦山と名辨あしと陸難ゆして驛所の今も心よ任せ
分て河内村より豊前坊と二里小餘なる道殊小險阻あてた山
坂のこみして人お終るそく谷川を渡るゆ幾度よつ小敷とあらん
之寄て只と休むと家もあられ岩石よ腰と掛若水よ咽と潤
して耳に聞物とていそるる聲も郭の聲のありさかくいへ

面白く風雅あるする多るやうなれで固よりさる方へさあめて
山坂ふりほりきて息喘が汗を流る時ハそそくそ樂しき思ふに
してたが物もどく心がそく苦くくのちりあす雅依のたつ同一と
実情あまづ一辛らじて豊前坊よまればそまよりハ平道又ハ下る
そくやのり安くありぬ彦山の町より中嶽よ登るそくも險しき艱
路ありそ苦しき又いそ人あふけうとあまわけはして登るぬる
程乃坂路とあまの度電をとりゆくお道傍乃いみしう大なる杉
木の枝葉繁密ありそ日影を蔽ひ隠れからして中程とせめて
ほりま周防の海豊前の地と眼下に見せありして中津より宇佐との
道よりそくそ山とそりそり山もこもこしく下るにん下るそく

英彦山
中嶽之
圖



頂よりふりて南の方をえまればいよいよ遠眺を縦りて肥
後國阿蘇の嶽とらるる處あり遥か九州第一なる山
として山の裾に豊前豊後筑前乃三國を跨がまじりといふなれば筑
紫乃富士山といふはけ彦山あるをこそ
○廿六日日あり家を出てくばも岩嶮しき山道よりハ駕籠を乗り
終ひて出立給へとおあがりふまゝむるなよこそかくもさうしてよ
とやハやがて人は世ありていと苦あはれさうばとて立出てもさ
彼人は古ハ武人たふ入道ありいと怪しくていふまれば後よりたふ
とてハ駕籠昇りて他の男をてとてむまづ人は世ありて笑つ
拙僧もハけ彦山の山伏中なる人は出たるといふ山伏の人は

いづるゆゑも及ぬ事ありといふつらき事近くまねていふは乃
身よりいそ人足おはせりてさうやく又回ハあ僧口とそりて
け山ハ坊舎多く然る故に無縁之徒の山伏も数多ハなる輩は
大形塗師を業とて塗師せざる者ハ法職のち何業ありては
或ハ袖或は襦袢をも産業とするゆゑに然るもかゝる奥
山にて平生好まざりてさうなる事難くはなす事さういふは
らゝ事おはハ人足のみならず何業までもするゆゑに然るゆゑ
拙僧も人足は出なるといふかゝるやがに時つらき辰刻や
るる以彦山乃籠宿とて立出登道を立下せば浅州の観音堂
とてあり又又下計ハ下官阿蘇院堂あり銅のを集り英

考山といふ額をうけたり。傍に洞の燈籠あり。名集乃かよるさ七尺
計の石の下乗とてはる下馬とて並びきり。又一丁計下まば念佛
堂あり。町より見あがりすと十四五丁乃る道のあ傍に坊舎いんげんとて並
く多くまり。其間大橋をすき海あり。極並づくも茶屋たり。合
たり。花の只思ひやうまてゆう。又四五丁下まば磴道りだんあり。是
より六丁乃る自然石を志すをぶたる坂道あり。肥前の佐賀の邊
下に宇野うのとて名ありといふ人との志すを寄附せりといふ。け人律
宗の信志とて世人念佛とて名ありと稱すとて。鋪石いしの道を下ませば
念佛堂あり。是も同じ人の建たる所とて坂ありといふ。民家頗るあり。
三丁下まば埴井川とて細き川あり。古橋あり。渡りて川乃るまよ

茶屋商家三軒あり。けさより系讀する人け川よてさかく。
さぞ坂本より是とて小石多き下り坂あり。けさ道あり。是より又
登り坂あり。ま峻いそし十丁計ありて貝吹峠小至るなり。坂又いよ急
なり。十二丁下りてとどり川村あり。谷川よりひく豊後頗るあり。
川を渡せば茶屋一軒あり。是より三四丁坂を登りて杖立峠に至る
け。小芭蕉翁の句塚とて甚おもしろ。石の面は申小芭蕉翁と
して句は其左右よりうらて彫る碑あり。

拾乃やてこし。別進行秋也

とあり。二三丁下まば長谷村とて二十軒あり。皆農家とて茶屋
あり。さるもんえんす。かくて山を登り下り谷川を幾度も渡りて十餘

丁りらら炭焼を業とする一ツ家あり。立寄てを焼は海をうるに
 徑半方計り丸く石垣を築周りしてささみ人計りあしてととと
 丸く丸き屋形のぬく蓋ひく横合よみ人計りしてりて。口より筋を
 積令火をつけて口をふさぎて焼なり。彦山よりけあさうと郭云殊ふ
 多し。さうなび小耳うすい郭云故のうつけやまつらん
 といふ狂歌を詠し。小決くけさの人多くと笑ひつくと半里計り坂を
 登れば宿の系とて杉林あり。彦山峰入の山伏達一七日の行場あり。
 け取東へ小倉谷田川船舟豊前國へ筑前國とて。あ國の境
 なり。是より平道さく半里計り行ハ筑前國小石原町。考山より福岡の
 渡の所地あり。人家五六十軒商家茶屋宿屋多し。け所より陶器の

焼出に我國乃瀬戸焼に似たる陶器あり。是より山道を凡先下り小
 行よ倉床村とて家五六軒づも。あり。十丁又下りて十軒計りある
 を移同し村あり。是とよ谷川を上録度渡りぬるふ雨さ降出ていと
 ざざ。又二町計りりけ谷み村あり。又十町計り官ふ人あり。こ
 あり。けささく谷川多しして雨より水増さバ通り難し。こふ。杉山
 道を下りて半里計りけ谷村。又半里け谷村。人家三丁十軒酒
 屋つれども茶屋なし。十丁計りけ谷村。人家三丁十軒あり。紺屋鍛
 冶屋多し。次よ星合村。人家三丁十軒計り酒茶屋あり。又了りけ谷
 拜松村。人家三丁十軒。村の入口小野津を八幡宮あり。石のを集たてり。そ
 前より大なる樗の本あり。一町計りけ谷林田村。け所ハ村さく。町あり。

人家六十軒大形高がまき茶屋も有り二三丁は萩村人家六十
軒茶屋商あり三丁行は満川村小川のつるをわらな流る又三丁
計はバく宮町小石原より村あり此所なり人家百軒計商家宿屋
あり松屋万庵ついで宿屋まで今日小石原まで人足を求たふし
なるゆふう遅滞しる所あり其所より道いそを急ぐ便利の
ためにお先出く十丁ありまじりしにすか脱して馳走えせる者ありあや慌して
志づきやほひさえれば小石原の人足ありて息あひ汗を流
つて地は平伏して延引の急いそ急を謝もやうて人といふ重おもくを六人と
出し送りありかやとてハい何よなるゆふ心業ひしてむそれより
けんといふゆ今こ夜よりめて蚊帳あやを釣りて掛ぬ言はくより雨降

出く寅刻にやう歌あり

筑紫紀行巻四終

